

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（うめ）

実践のポイント			
①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的 事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○
	12 整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●
		夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する	○
	13 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14 ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
15 ネットによる被害防止対策	収穫作業の省力化とアカマダラケシキスイの被害防止対策のために樹冠下に収穫用ネットを設置する（※完熟用梅）	○	
物理的 防除	16 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	17 捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的 防除	18 交信かく乱剤の利用	コスカシバに対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	19 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的 防除	20 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びカイガラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
 (注)「コルト顆粒水和剤」は小粒核果類での登録

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	コルト顆粒水和剤	
カ イ ガ ラ ム シ 類	アプロードフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類 ※但し, アプロードはベダリアテントウの幼虫には影響がある

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので, 詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表(各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表)」を参考にしながら, 影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【うめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○	
	12	整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●	
			夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する	○	
	13	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14	ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●		
15	ネットによる被害防止対策	収穫作業の省力化とアカマダラケシキスイの被害防止対策のために樹冠下に収穫用ネットを設置する（※完熟用梅）	○		
物理的防除	16	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	17	捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	18	交信かく乱剤の利用	コスカシバに対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	19	土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【うめ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種 的 防 除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		○	
	12	整枝・せん定		●	
				○	
	13	罹病植物体の除去		●	
14	ほ場内環境の管理		●		
15	ネットによる被害防止対策		○		
物理 的 防 除	16	気門封鎖剤の利用		●	
	17	捕殺		●	
生物 的 防 除	18	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学 的 防 除	20	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（すもも）

実践のポイント			
①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種的防除を中心とした対策			
②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○
	12 整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●
		夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する	○
13 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14 ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
物理的防除	15 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16 ネット被覆の利用	ヤガ類、カメムシ類の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する	○
	17 捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	18 交信かく乱剤の利用	コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	19 土着天敵の保護利用	アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	20 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
 （注）「ウララDF」「コルト顆粒水和剤」は小粒核果類での登録

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等）
	コルト顆粒水和剤	
カ イ ガ ラ ム シ 類	アプロードフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類 ※但し、アプロードはベダリアテントウの幼虫には影響がある
チ ョ ウ 目 害 虫	エクシレルSE	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ） クモ類
	サムコルフロアブル	
	フェニックスフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【すもも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●		
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的 防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○	
	12	整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●	
夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する			○		
13	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
14	ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●		
物理的 防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	ネット被覆の利用	ヤガ類、カメムシ類の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する	○	
	17	捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的 防除	18	交信かく乱剤の利用	コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	19	土着天敵の保護利用	アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的 防除	20	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
20	
○の数	○の 実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【すもも】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病虫害対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的 防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		○	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
14	ほ場内環境の管理		●		
物理的 防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	ネット被覆の利用		○	
	17	捕殺		●	
生物的 防除	18	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的 防除	20	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（なし）

実践のポイント			
①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策			
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用			
③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○
	12 整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●
		夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する	○
	13 粗皮削り	病虫害の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する	○
	14 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	15 花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、幼果期に、果実に付着している花弁等の花殻を落とす	●
16 ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
17 周辺寄主植物の除去	園周辺のビャクシン類は除去する	●	
物理的防除	18 気門封鎖剤の利用	ハダニ類やカイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	19 袋かけ	病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う	○
	20 ネット被覆の利用	害虫の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する	○
	21 捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	22 黄色灯の利用	ヤガ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○
生物的防除	23 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	24 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	25 土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	26 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ハダニ類	カネマイトフロアブル	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシラアザミウマ等）
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	ダニサラバフロアブル	
	バロックフロアブル	
アブラムシ類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等）
	コルト顆粒水和剤	
カイガラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類
チヨウ目害虫	エクシレルSE	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチプトカメムシ類） クモ類
	サムコルフロアブル	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックスフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なし】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用					
③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策	防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○	
	12	整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●	
			夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する	○	
	13	粗皮削り	病害虫の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する	○	
	14	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	15	花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、幼果期に、果実に付着している花弁等の花殻を落とす	●	
16	ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●		
17	周辺寄主植物の除去	園周辺のビャクシン類は除去する	●		
物理的防除	18	気門封鎖剤の利用	ハダニ類やカイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	19	袋かけ	病害虫の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う	○	
	20	ネット被覆の利用	害虫の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する	○	
	21	捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	22	黄色灯の利用	ヤガ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	23	交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	24	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	25	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	26	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
23	
○の数	○の実施数
8	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なし】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	7	適地での栽培		○
	8	排水対策の実施		●
	9	防風対策		●
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
	11	土壌流亡防止対策		○
	12	整枝・せん定		●
	13	粗皮削り		○
	14	罹病植物体の除去		●
	15	花殻落とし		●
	16	ほ場内環境の管理		●
	17	周辺寄主植物の除去		●
物理的防除	18	気門封鎖剤の利用		●
	19	袋かけ		○
	20	ネット被覆の利用		○
	21	捕殺		●
	22	黄色灯の利用		○
生物的防除	23	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	24	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●
	25	土着天敵の保護利用	選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載	●
化学的防除	26	農薬の使用全般		●
				●

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（ぶどう [施設]）

実践のポイント				
①褐斑病，灰色かび病及びべと病に対する，耕種的防除を中心とした対策				
②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する，土着天敵の保護利用				
③チョウ目害虫に対する，微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	<p>自らほ場の観察を実施し，病虫害の発生の動向を把握する</p> <p>病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p>	●
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため，病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど，IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために，土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策	防風ネット等により防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○
	12	整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●
	13	粗皮削り	病虫害の発生源を除去するため，冬季に粗皮削りを実施する	●
	14	罹病植物体の除去	発病部位及び巻きづる等は，早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
15	花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防止するため，開花終了後，果粒や果梗に付着している花殻を落とす	●	
16	ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
17	マルチの利用	雑草や病虫害発生の抑制，生育促進及び湿度管理等のためにマルチを利用する	○	
物理的防除	18	袋かけ	病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため，果実に袋かけを行う	○
	19	捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	20	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して，バチルス剤を利用する	○
	21	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に，BT剤の利用を取り入れる	●
	22	土着天敵の保護利用	チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対して化学合成農薬を散布する際には，土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	23	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて，適正な散布に努め，過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに，残液やタンクの洗浄水は適切に処理し，河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目，○は選択項目

付表1 チャノキイロアザミウマ及びハダニ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アチザミノウキマイロ	エクシレルSE	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類，カスミカメムシ類）
	コルト顆粒水和剤	
ハダニ類	オマイト水和剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類，オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ，アカガシワクダアザミウマ等）
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	ダニサラバフロアブル	
	ニッソラン水和剤	
	マイトコーネフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用すること。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぶどう〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①褐斑病、灰色かび病及びびへと病に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する、土着天敵の保護利用					
③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策	防風ネット等により防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○	
	12	整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●	
	13	粗皮削り	病害虫の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する	●	
	14	罹病植物体の除去	発病部位及び巻きづる等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	15	花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、開花終了後、果粒や果梗に付着している花殻を落とす	●	
	16	ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
17	マルチの利用	雑草や病害虫発生の抑制、生育促進及び湿度管理等のためにマルチを利用する	○		
物理的防除	18	袋かけ	病害虫の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う	○	
	19	捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	20	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○	
	21	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	21	土着天敵の保護利用	チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぶどう [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①褐斑病、灰色かび病及びびべと病に対する、耕種の防除を中心とした対策				
②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する、土着天敵の保護利用				
③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種 的 防 除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	7	適地での栽培		○
	8	排水対策の実施		●
	9	防風対策		●
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
	11	土壌流亡防止対策		○
	12	整枝・せん定		●
	13	粗皮削り		●
	14	罹病植物体の除去		●
	15	花殻落とし		●
	16	ほ場内環境の管理		●
17	マルチの利用		○	
物理 的 防 除	18	袋かけ		○
	19	捕殺		●
生物 的 防 除	20	微生物殺菌剤の利用	利用した場合は資材名を記載	○
	21	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●
	22	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●
化学 的 防 除	23	農薬の使用全般		●
				●
				●

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（もも）

実践のポイント			
①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的 事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○
	12 整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●
		夏季のせん定により樹冠内部に発生した徒長枝の間引きを実施する	○
	13 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにはほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14 花殻落とし	灰星病等による腐敗を防止するため、幼果期に、果実及び枝に付着した花弁等の花殻を落とす	●	
15 ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
物理的 防除	16 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	17 ビニル被覆	ビニル被覆栽培を行う	○
	18 袋かけ	病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う	○
	19 捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的 防除	20 交信かく乱剤の利用	コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	21 土着天敵の保護利用	チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的 防除	22 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫，アブラムシ類及びカイガラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	エクシレルSE	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	サムコルフロアブル	
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
アブラムシ類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類，タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類，オオメカメムシ類等）
	コルト顆粒水和剤	
カイガラムシ類	アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので，詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら，影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【もも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	○	
	12 整枝・せん定	冬季のせん定により罹病枝を除去する	●	
		夏季のせん定により樹冠内部に発生した徒長枝の間引きを実施する	○	
	13 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	14 花殻落とし	灰星病等による腐敗を防止するため、幼果期に、果実及び枝に付着した花弁等の花殻を落とす	●	
	15 ほ場内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
物理的防除	16 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	17 ビニル被覆	ビニル被覆栽培を行う	○	
	18 袋かけ	病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う	○	
	19 捕殺	食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	20 交信かく乱剤の利用	コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	21 土着天敵の保護利用	チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	22 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【もも】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病虫害対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的 防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		○	
	12	整枝・せん定		●	
				○	
	13	罹病植物体の除去		●	
14	花殻落とし		●		
15	ほ場内環境の管理		●		
物理的 防除	16	気門封鎖剤の利用		●	
	17	ビニル被覆		○	
	18	袋かけ		○	
	19	捕殺		●	
生物的 防除	20	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的 防除	21	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（温州みかん [施設]）

実践のポイント				
①灰色かび病に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	<p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p>	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種の防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防ぐため、開花期に、感染源となりうる花殻を落とす	●
13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①灰色かび病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	花殻落とし	灰色かび病等による果面の汚損を防ぐため、開花期に、感染源となりうる花殻を落とす	●		
13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して、パチルス剤を利用する	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
4	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①灰色かび病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	整枝・せん定		●	
	11	罹病植物体の除去		●	
	12	花殻落とし		●	
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用		●	
	15	防虫ネットの利用		●	
	16	捕殺		●	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	天敵の利用	利用した資材名を記載	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（温州みかん [露地]）

実践のポイント			
①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1	発生予察	●
		自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
	2	侵入病虫害対策	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
3	IPMの情報収集	●	
4	記帳管理	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	●
	6	土壌及び施肥管理	●
		土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
	7	適地での栽培	○
	8	排水対策の実施	●
	9	防風対策の実施	●
	10	雑草管理	●
	11	土壌流亡防止対策	☆
	12	整枝・せん定	●
	13	罹病植物体の除去	●
	14	花殻落とし	○
15	マルチの利用	☆	
物理的防除	16	気門封鎖剤の利用	●
	17	捕殺	●
	18	光反射資材の利用	○
		チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○
19	黄色灯の利用	○	
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	○
	21	微生物殺虫剤の利用	●
		カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
22	土着天敵の保護利用	●	
化学的防除	23	農薬の使用全般	●
		病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は、実践項目11又は15の耕種的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「みかん」又は「かんきつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アプロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、功効シワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チヨウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	ノーモルト乳剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●		
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	☆	
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
15	マルチの利用	雑草や病虫害発生の抑制、土壌水分管理等のためにマルチを利用する	☆		
物理的防除	16	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	17	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	18	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
			チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○	
19	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○		
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	21	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
22	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●		
化学的防除	23	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目11又は15の耕種的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
7	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん〔露地〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
	7	適地での栽培		○
	8	排水対策の実施		●
	9	防風対策の実施		●
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
	11	土壌流亡防止対策		☆
	12	整枝・せん定		●
	13	罹病植物体の除去		●
	14	花殻落とし		○
	15	マルチの利用		☆
物理的防除	16	気門封鎖剤の利用		●
	17	捕殺		●
	18	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○
		利用した場合には資材名を記載	○	
19	黄色灯の利用		○	
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	21	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●
		利用した場合には資材名を記載	○	
22	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	23	農薬の使用全般		●
				●
				●

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目11又は15の耕種的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（不知火 [施設]）

実践のポイント				
①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
	13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火 [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①耕種の防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
	13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等に対して、ハチルス剤等を利用する	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火 [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	整枝・せん定		●	
	11	罹病植物体の除去		●	
	12	花殻落とし		○	
物理的防除	13	施設内環境の管理		●	
	14	気門封鎖剤の利用		●	
	15	防虫ネットの利用		●	
生物的防除	16	捕殺		●	
	17	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	20	天敵の利用	利用した資材名を記載	●	
	21	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（不知火 [露地]）

実践のポイント				
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する	●
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす。	○	
物理的 防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
			チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的 防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的 防除	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アブロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカメガシワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●		
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす。	○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する			○		
	18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火〔露地〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
18	黄色灯の利用		○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（きんかん [施設]）

実践のポイント				
①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
	13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等の対策として、バチルス剤等を利用する	○
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①耕種の防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
	13	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
物理的防除	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等の対策として、バチルス剤等を利用する	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	20	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	整枝・せん定		●	
	11	罹病植物体の除去		●	
	12	花殻落とし		○	
物理的防除	13	施設内環境の管理		●	
	14	気門封鎖剤の利用		●	
	15	防虫ネットの利用		●	
生物的防除	16	捕殺		●	
	17	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	20	天敵の利用	利用した資材名を記載	●	
	21	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（きんかん [露地]）

実践のポイント			
①黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	白らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12 整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
13 罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14 花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的防除	15 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16 捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
	18 黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○
生物的防除	19 交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
		カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21 土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	22 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アブロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
	18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [露地]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病虫害対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	黄色灯の利用		○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（たんかん）

実践のポイント				
①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する	●
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的 防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
			チャノキロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的 防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的 防除	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アプロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チヨウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【たんかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●		
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する			○		
	18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【たんかん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
18	黄色灯の利用		○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（かぼす）

実践のポイント				
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する	●
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的 防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
			チャノキロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的 防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的 防除	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アプロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカシカアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チヨウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼす】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●		
13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
			害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
17	光反射資材の利用	チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○		
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼす】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
18	黄色灯の利用		○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（小みかん）

実践のポイント				
①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する（※栽培期間中に屋根かけを行わない場合は、炭酸カルシウム剤の利用も可能）	○
	18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アブロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカメガシワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【小みかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
	12 整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	13 罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14 花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16 捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する（※栽培期間中に屋根かけを行わない場合は、炭酸カルシウム剤の利用も可能）	○	
	18 黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19 交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
		カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21 土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●		
化学的防除	22 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【小みかん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①そうか病及びかいよう病に対する耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	黄色灯の利用		○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（なつみかん）

実践のポイント				
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	白らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する			○	
生物的防除	18	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してポーベリア剤を利用する	○
20	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「なつみかん」又は「かんきつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アプロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カカシクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	ノーモルト乳剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なつみかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
	実践項目	実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
	12 整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	13 罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14 花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15 気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16 捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する		○		
生物的防除	18 交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	19 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
		カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
20 土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	21 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なつみかん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日, 対象病害虫, 活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には, 診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には, 実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載 利用した場合には資材名を記載	○ ○	
生物的防除	18	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載 利用した場合には資材名を記載	● ○	
	20	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には, 農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般		● ● ●	

※●は必須項目, ○は選択項目
斜線の項目については, 右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については, ○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（ぼんかん）

実践のポイント				
①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
			チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルウシム剤を利用する	○
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アブロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カカシワクダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぼんかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●		
13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルウム剤を利用する			○		
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぼんかん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種の防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
18	黄色灯の利用		○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（レモン〔施設〕）

実践のポイント			
①かいよう病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10 整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
11 罹病植物体の除去	発病部位等は、早めには場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
物理的防除	13 気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	14 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	☆
	15 捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●
生物的防除	16 交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	☆
	17 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	18 天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆
化学的防除	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント		☆：下記の14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する			
①かいよう病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ハダニ類に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
11	罹病植物体の除去	発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
物理的防除	13	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	☆	
	15	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
生物的防除	16	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	☆	
	17	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	18	天敵の利用	ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆	
化学的防除	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
1	
☆の数	☆の実施数
4	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②ハダニ類に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	整枝・せん定		●	
	11	罹病植物体の除去		●	
	12	施設内環境の管理		●	
物理的防除	13	気門封鎖剤の利用		●	
	14	防虫ネットの利用		☆	}
	15	捕殺		●	
生物的防除	16	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	17	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	18	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
化学的防除	19	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（レモン [露地]）

実践のポイント				
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	●	
		自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●
	12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○
			チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○
18	黄色灯の利用	ヤカ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
アザミウマ類	ウララ50DF	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等）
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	デミリン水和剤	
	マッチ乳剤	
カイガラムシ類	アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル	寄生蜂 テントウムシ類
	コルト顆粒水和剤	
サビダニ類	アプロードエースフロアブル	捕食性ダニ類
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
	マッチ乳剤	
ハダニ類	カスケード乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカシツカダアザミウマ等）
	カネマイトフロアブル	
	コロマイト水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニエモンフロアブル	
	ダニゲッターフロアブル	
	ダニコングフロアブル	
	パロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チヨウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	デミリン水和剤	
	フェニックスフロアブル	
	マッチ乳剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策の実施	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	土壌流亡防止対策	草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る	●	
12	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●		
13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
14	花殻落とし	灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす	○		
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用	カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	●	
	16	捕殺	カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する	●	
			害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する	○	
17	光反射資材の利用	チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する	○		
18	黄色灯の利用	ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する	○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
			カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する	○	
21	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン [露地]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策の実施		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	土壌流亡防止対策		●	
	12	整枝・せん定		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	花殻落とし		○	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		●	
	16	捕殺		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
18	黄色灯の利用		○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
			利用した場合には資材名を記載	○	
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学的防除	22	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（マンゴー）

実践のポイント			
①炭疽病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7 適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●
	12 芽かき	アザミウマ類の増殖を防ぐため、果実肥大期に発生した新梢の芽かきを実施する	●
	13 罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
14 施設内環境の管理	施設内の通風や採光を良好にするなどして、多湿・結露を防ぐ	●	
物理的防除	15 気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	16 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	○
生物的防除	17 交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○
	18 微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○
	19 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	20 天敵の利用	チャノキイロアザミウマに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●
化学的防除	21 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【マンゴー】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①炭疽病に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種 的 防 除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	防風対策	防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	整枝・せん定	樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う	●	
	12	芽かき	アザミウマ類の増殖を防ぐため、果実肥大期に発生した新梢の芽かきを実施する	●	
	13	罹病植物体の除去	発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
14	施設内環境の管理	施設内の通風や採光を良好にするなどして、多湿・結露を防ぐ	●		
物理 的 防 除	15	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	○	
生物 的 防 除	17	交信かく乱剤の利用	ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	20	天敵の利用	チャノキイロアザミウマに対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
化学 的 防 除	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
19	
○の数	○の 実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【マンゴー】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①炭疽病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	防風対策		●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	整枝・せん定		●	
	12	芽かき		●	
	13	罹病植物体の除去		●	
	14	施設内環境の管理		●	
物理的防除	15	気門封鎖剤の利用		○	
	16	防虫ネットの利用		○	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	天敵の利用	利用した資材名を記載	●	
化学的防除	21	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（パッションフルーツ [施設]）

実践のポイント				
①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした対策				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			良質な堆肥を計画的に施用する	●
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
10	罹病植物体の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	11	施設内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	13	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	14	防虫ネットの利用	アブラムシ類等の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	○
生物的防除	15	天敵の利用	ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する	○
化学的防除	16	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【パッションフルーツ [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした対策					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	新植及び改植時には健全な苗木を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			良質な堆肥を計画的に施用する	●	
	7	適地での栽培	新植及び改植時には適地を選定する	○	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
10	罹病植物体の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●		
	11	施設内環境の管理	園内の通風と採光を適切に管理する	●	
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	13	気門封鎖剤の利用	ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	14	防虫ネットの利用	アブラムシ類等の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する	○	
15	天敵の利用	ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する	○		
化学的防除	16	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
15	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標【パッションフルーツ [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした予防対策					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全苗の使用	苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	適地での栽培		○	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	罹病植物体の除去		●	
11	施設内環境の管理		●		
物理的防除	12	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	13	気門封鎖剤の利用		○	
	14	防虫ネットの利用		○	
生物的防除	15	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	16	農薬の使用全般		●	
				●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する